

授業科目名 (英文名)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	1、2年次・前期
担当教員	山名 一成 福山 重樹 清水 勝 松尾 直人	所属	特任教授・非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	本講義は、工学系の大学院生が、「世界の大学の教育研究事情」ならびに「グローバルビジネスの最前線」を理解し、グローバル社会で活躍するために必要な研究マインド、ビジネス感覚、グローバルコミュニケーション力などについて理解を深めることを目的とする。		
講義内容・授業計画	<p>最初に、「世界の大学の教育研究事情」等について学ぶ。次に「グローバルものづくり(トヨタ生産方式)」、「グローバルものづくり(開発・設計等)」について英語で学ぶ。そして、「日本のものづくり」についてグループ討議と英語によるグループ発表、「学生個人の研究テーマ」について各自英語で発表し、発信力と傾聴力を養う。</p> <p>(1) 日本の化学教育・研究(生体関連化学を中心に)</p> <p>(2) ヨーロッパ・北米・アジアの化学教育・研究(講義担当者の経験をもとに)</p> <p>(3) 機能性電子材料</p> <p>(4) 機能性電子材料薄膜研究</p> <p>(5) 機能性薄膜電子材料とその応用に関する教育・研究事情</p> <p>(6) L S I と 属半導体</p> <p>(7) L S I と半導体企業</p> <p>(8) L S I とアカデミア</p> <p>(9) 日本半導体企業の世界戦略()</p> <p>(10) 日本半導体企業の世界戦略()-学生による英語討論含む-</p> <p>(11) グローバルものづくり(品質管理など)</p> <p>(12) グループ討議(日本のものづくり)</p> <p>(13) グループ英語発表(日本のものづくり)</p> <p>(14) 学生個人の研究テーマ(英語発表、1/2)</p> <p>(15) 学生個人の研究テーマ(英語発表、2/2)</p>		
テキスト			
参考文献	英語でKaizen! トヨタ生産方式、成沢俊子with John Shook、日刊工業新聞社など		
成績評価の基準・方法	レポート、発表		
履修上の注意・履修要件	<p>特になし</p> <p>新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業 ・当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定 ・連絡します</p>		
実践的教育	該当しない		
備考			